



# 廿日市市教委だより

～ 子どもたちの笑顔を守るのはわたしたち ～

令和3年  
10月25日  
第7号



夏のような暑さから一転、冷たい秋の風が吹き始め肌寒い日が続いています。「秋高し」という季語があるように、秋は空が澄み、高く広く感じる季節。二十四節気では、10月8日からの、露が寒さで濁る意の「寒露」、23日からは、初霜の降りるころの意の「降霜」と続き、早くも秋が終わりに近づこうとしています。今回は、「令和3年度全国学力・学習状況調査の結果から見えた成果と課題」について紹介します。



## 令和3年度全国学力・学習状況調査の結果から見えた成果と課題

### 〈教科〉

◇正答率の状況 (%)

	小学校 国語		小学校 算数		中学校 国語		中学校 数学	
	R1	R3	R1	R3	R1	R3	R1	R3
全国	63.8	64.7	66.6	70.2	72.8	64.6	59.8	57.2
広島県	66.0	66.0	68.0	70.0	74.0	65.0	60.0	57.0
廿日市市	67.0	70.0	68.0	73.0	74.0	64.0	59.0	54.0

○小学校では、全体的に見ても、多くの設問において県平均を上回っていました。

●中学校では、一昨年度よりも県平均との差が広がっており、課題が大きいです。

●小・中学校ともに、特に算数・数学において、**情報を読み取り、分かったことや理由、方法などを記述する**設問の正答率が低く、県平均との差が大きい傾向があります。「**事実**」「**方法**」「**理由**」について**説明する力**を身に付けさせるために、より一層指導の工夫、改善に取り組んでいく必要があります。

☆本校の結果を分析する際は、**学校全体の成果と課題を分析**するだけでなく、**つまずきの大きい児童生徒（気になるあの子）に対する分析**も行い、学校全体で取り組む授業改善と個別の指導・支援の両方について、具体的に整理、実践してください。

☆国研作成の解説資料、報告書、授業アイデア例、調査問題活用の参考資料や市の分析資料等を、本校の授業改善の参考にしてください。



### 〈質問紙〉

質問紙の結果から、本市の子ども達の実態として顕著なものは次の4つでした。

- |   |                        |
|---|------------------------|
| ①「自分にはよいところがあると思いますか」                                     | ○ [小学生84.7%, 中学生81.2%] |
| ②「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」                                    | ○ [小学生97.0%, 中学生95.7%] |
| ③「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」                               | ● [小学生74.3%, 中学生68.4%] |
| ④新型コロナウイルスによる休校期間中学校からの課題で分からないことがあったとき、「分からないことをそのままにした」 | ● [小学生9.2%, 中学生11.6%]  |



①・②については、それぞれ自己肯定感や自己有用感につながる項目です。小学生・中学生とも県平均を上回っています。各学校におけるつながり支援プロジェクトへの取組など、先生方による支援やほたらきかけが子ども達の自信や意欲を高めています。

一方で、③・④のような課題が明らかになりました。③については、県平均とほぼ同等ではありましたが、令和元年度と比較すると、本市では小学生が7.8ポイント減、中学生が5.2ポイント減という結果でした。④については「主体的な学び」の実現に係る課題ととらえています。本市や県の経年数値を比較すると、コロナ禍による影響の可能性も考えられます。

本市の課題を解決する鍵の1つは「キャリア教育」であると考えます。とりわけ、キャリア教育の要としての特別活動(学級活動)やキャリア教育の視点を取り入れた生徒指導の充実を図ることは重要です。具体については、令和3年10月12日付事務連絡「廿日市市教育委員会における、令和3年度全国学力・学習状況調査及び広島県児童生徒学習意識等調査結果の分析について」で詳しく紹介していますので、ぜひ参考にしてください。

## 目指せ！日本一の図書室！

今回は、平良小学校の図書室リニューアルの様子をお伝えします。平良小学校では、明るく開放的な図書室を目指し、木の温もりを生かした図書室作りを行っています。

なんとと言っても、平良小学校の校舎の特色を生かした青空図書館が目を引きま



↑青空図書館



↑技術員手作りの書架

技術員の三宝さんお手製の書架やデッキの柵、子ども達のアイデアで作られた木製の椅子（広工大制作）、保護者ボランティアによるバーコード貼付作業など、教職員や子ども達、保護者、地域の方々の思いが込められた温もりある図書室の完成が楽しみです！



↑保護者ボランティアによる作業

## 特別支援教育の視点に基づいた学習指導と生徒指導

### インクルーシブ教育システムの構築のための特別支援教育の推進について

インクルーシブ教育システムの構築のためには、障害のある子供と障害のない子供が、可能な限り同じ場で共に学ぶことを目指すべきであり、その際には、それぞれの子供が、授業内容を理解し、学習活動に参加している実感・達成感をもちながら、充実した時間を過ごしつつ、生きる力を身に付けていけるかどうかという最も本質的な視点に立つことが重要である。

〈障害のある子供の教育支援の手引（令和3年6月）より〉

子ども一人一人の自立と社会参加を見据え、その時点でその子どもに最も必要な教育を提供することが大切です。

そのために、具体的にどのような指導や、合理的配慮を含む支援が必要なのかを検討すること、教育的ニーズは常に変化しうることを全ての関係者が認識することが必要です。

また、本人や保護者の思いを聞きながら、子どもの可能性を最大限に伸ばすこと

ができる教育の場について正確な情報を分かりやすく伝えることも大切です。



## ICT活用への道

### タブレットをこうして活用しています！第4弾

今月号は「野坂中学校」です。

10月15日（金）、野坂中学校では「GIGA 参観日」が行われました。「GIGA 参観日」とは、GIGA スクール構想で整備した一人1台端末を活用して、子どもたちが「主体的な学び」を実現している姿を保護者のみなさんにみていただくことを目的とした参観日です。

2年生の理科では、「刺激から反応までの時間を考える」をめあてに「ものさしを掴んだり」「お互いに手をつないだり」刺激から反応する時間を計っていました。みんなで得た結果は、タブレットで共有していました。授業の振り返りもタブレットのアンケート機能を活用していました。

3年生の国語では、「自分が選んだ和歌」について、学習していました。タブレットで作者のことを一人一人が調べていました。従来だと「資料集」のようなみんなが共通で持っているものや、図書室の蔵書で調べ、幅広い情報を得たり、みんなが同時に調べたりすることができにくい状況でした。しかし、タブレット用いることで、一人一人が必要な情報を、待ち時間なく得ることが可能になりました。

右の写真は、3年生の数学です。授業のめあては、「相似な図形の性質がわかる」でした。Jamboardで作成されたワークシートを活用して、一人一人が相似な図形を描いていました。「真っ直ぐな線を描く」「目盛りを数える」ことに、最初は苦戦する場面もありましたが、各自が描いた相似な図形はClassroomで共有されているので、お互いに比較しながら学習が進められていました。

タブレットを活用することで、生徒が主体的に学ぶ授業になっていました。

### 野坂中学校

